

令和 8 年 4 月 1 6 日

## 令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

埼玉県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
上尾市立上尾小学校	上尾市教育委員会	公立

## 1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価・保護者評価の結果公表に関する情報

自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	上尾市立上尾小学校ウェブサイト 令和 7 年度特別の教育課程の自己評価結果について <a href="https://www.city.ageo.lg.jp/site/ageo-elementaryschool/list447-2636.html">https://www.city.ageo.lg.jp/site/ageo-elementaryschool/list447-2636.html</a>
学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	上尾市立上尾小学校ウェブサイト 令和 7 年度特別の教育課程の学校関係者評価結果について <a href="https://www.city.ageo.lg.jp/site/ageo-elementaryschool/list447-2636.html">https://www.city.ageo.lg.jp/site/ageo-elementaryschool/list447-2636.html</a>
保護者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	上尾市立上尾小学校ウェブサイト 令和 7 年度特別の教育課程の保護者評価結果について <a href="https://www.city.ageo.lg.jp/site/ageo-elementaryschool/list447-2636.html">https://www.city.ageo.lg.jp/site/ageo-elementaryschool/list447-2636.html</a>

## 2. 特別の教育課程の内容

## (1) 特別の教育課程の概要

本市では、これまで A L T の配置や、各校、カリキュラム・マネジメントにより、柔軟な時間割の編成を行う（時間割・日課表・年間行事計画等の工夫、モジュール学習、週 2 9 コマ等）など、英語教育を推進してきた。平成 3 0 年度から、小学校 3 ・ 4 学年で 3 5 時間を、小学校 5 ・ 6 学年で 7 0 時間の活動型の英語教育として、外国語活動を実施してきた。

また、令和元年度から、小学校 1 ・ 2 年生においては、学校教育法施行規則第 5 1 条に定められる授業時数以外で、年間 1 0 時間程度の外国語活動を実施するほか、英語の授業以外に、休み時間等を活用し、児童と A L T が自由に会話を楽しむイングリッシュトークの実施を通して、日常的に A L T と触れ合う機会を充実させ成果を上げてきた。

学習指導要領の完全実施に伴い、新たに、これまでの取組をさらに発展させるため、以下の内容で取り組む。

- ア 小学校 1 ・ 2 学年において、1 年生は年間 3 4 時間、2 年生は年間 3 5 時間、生活科の時間を削減し、英語活動を実施する。
- イ 本市の研究組織である英語活動充実のための検討委員会は、上記アの時間を活用し、

コミュニケーション能力を育成するためカリキュラム及び教材を研究・開発する。

- (2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性  
本市は、以下のようなニーズに応えるため、市内全小学校が教育課程特例校として、「進んで英語を話せる上尾の子を育てる」ことを目指し、英語活動を通して、グローバル化社会で活躍する力を育成する。
- ア 小学校低学年段階から言語活動に慣れ親しませることによる、小・中学校英語教育の充実や、英語によるコミュニケーションを主体的に図ろうとする児童生徒の育成。
- (3) 特例の適用開始日  
令和2年4月1日
- (4) 取組の期間  
無期限

### 3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている  
・ 一部、計画通り実施できていない  
・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

- ・ 毎週金曜日の業間休みに ei-ei-go-time (エイエイゴータイム) を行いました。主にALTを中心に実施し、各学年の実態に応じて、積極的にコミュニケーションをとる環境づくりを行った。また、学期に1回 Special-ei-ei-go-time として、5・6年生が授業で行っているスピーチを全校児童に向けて発表する場を設定した。
- ・ 校内研修を年2回実施し、教員の英語力や英語指導力の向上に努めた。
- ・ イングリッシュルーム(北校舎3階)を活用し、3～6年生は英語の授業を行った。
- ・ 各学級に日付・曜日の掲示をし、身近に英語に触れる環境とした。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している  
・ 実施していない

#### <特記事項>

- ・ 学校だより、ホームページ等を活用して、英語活動の様子を情報発信した。
- ・ 学校運営協議会で英語教育の取組を紹介した。

#### 4. 実施の効果及び課題

##### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本特例は「進んで英語を話せる上尾の子を育てる」ことを目指し、小・中9年間を見通した英語教育を推進するものである。

本校の1・2年生の英語活動の学習状況を見ると、生き生きと学習に取り組んでいる児童がほとんどである。ALTの発音を真似しようとしたり、言葉で言うだけでなく、ジェスチャーを使ったりして楽しみながら活動していた。また、昨年度行っていたei-ei-go-time(エイエイゴタイム)では、実施日にほとんどの児童が参加し、ALTとのコミュニケーションや、児童間で英語を使ったコミュニケーションを楽しむ姿があった。

一方、恥じらいや不安感から意欲的に学習に参加できていない児童もいる。「令和7年度特別の教育課程学校関係者評価」でも、「本校の児童は、英語活動の授業に意欲的に取り組んでいる。」の項目では、約2割が「あまり思わない」と意欲を感じられないという回答になった。また、「本校はALTを十分活用し、異文化理解を推進している。」という項目でも2割が「あまり思わない」と、ALTの活用をし切れていないという結果になった。そのため、ALTの活用方法を見直し、児童が自信をもって英語活動を行える学習環境の改善が必要である。

##### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校では、ALTが常駐配置されているため、児童は授業以外での学校生活でもALTとの交流をし、生きた英語に触れることができている。また、授業の中で様々な国の文化に触れることで自国と他国のよさを両方感じることができている。異文化の国の人と普段から関わることで「他者を理解しようとする態度」や「多様な価値観の中で自分を表現する力」を育むことができている。

一方で、普段の生活の中で積極的に英語を取り入れているかということと児童にはその意識はあまりないように感じており、英語活動の授業やALTとの挨拶の場面でしか英語を活用していないことがほとんどである。現状は、生活の中と英語活動が結びついていない状況である。

#### 5. 課題の改善のための取組の方向性

4に示すような課題から、「英語を得意とする子」が目立つ一方で、恥じらいや不安を感じる児童が「自分には関係ないもの」と心理的にドロップアウトし始めていると考える。そのため、学習の中で正解を求める活動から、ジェスチャーや表情だけでも「伝わった」と実感できる、正誤のないスモールステップの活動設計をすることが必要である。また、日常生活の中でも自然と英語でコミュニケーションをとれる環境(心理的安全性)づくりも意識して取り組んでいく。

今後の英語活動充実のため「言語(英語)」を目的とするのではなく、「意思疎通(ミッション)」を目的とする内容の充実を推進していく。